

# 自殺防止キャンペーン アジア系高齢者女性向け

9月24日、フラッシングの韓国系米国人高齢者センターで、「アジア系女性高齢者自殺防止キャンペーン」の記者会見が開催された。ハミルトン・マディソン・ハウス、アジア系アメリカ人連盟、アジア系アメリカ人精神衛生ニューヨーク連合主催。当日は同イベントを支援するため、ニューヨーク州

下院議員のピーター・M・リベラ氏、ニューヨーク州精神衛生局医療責任者ロイド・セドラー博士、日本からは在ニューヨーク総領事館所属の吉田恒昭博士が参



加した。米国内でのアジア系米人女性高齢者の自殺率は高く、75歳以上では、10万人あたり7・95人（白人同4・18人、黒人同1・18人）となっている。原因として、文化的な背景による精神衛生治療への意識の低さ、情報と施設の不足、言語の問題、米国生活での適応障害などが挙げられ、今後「互いに手を組んで助け合い、援助を提供していく」というメッセージをアジア系高齢者女性へ向けて発信していく。